



クリスマスのお話



12月25日のクリスマスは、イエス・キリストの誕生をお祝いするキリスト教の祝日です。イエスは、貧しい馬小屋でお生まれになったと伝えられています。クリスマスが近づくと、イエスの誕生の場面を再現した人形や馬小屋の模型が、教会や信徒の家庭に飾られます。

飼い葉桶に寝かされた幼子のイエスと、それを見守る母マリアと父ヨセフ、動物たち。そして天使のお告げを受けてお祝いにかげつけた羊飼いと、星に導かれて遠い国から旅してきた博士たち。これらは聖書の場面を再現しています。

今から約2000年前、イスラエルはローマ帝国の支配下にありました。時の皇帝アウグストゥスは、イスラエルの人々に故郷へ帰って住民登録をするように命じました。そこでマリアとヨセフも住民登録のために、ヨセフの故郷であるベツレヘムに向かいました。ベツレヘムには彼らが泊まる宿がなく、マリアは生まれたばかりのイエスを布にくるんで飼い葉桶に寝かせました。

馬小屋における誕生は、ご自身も小さく貧しい者としてお生まれになり、貧しい人々や誰からも愛されたことのない人々に、惜しみない愛を注いだイエス・キリストの生き方を象徴するものです。

人々は馬小屋を飾ることで、すべての人の救いのために、貧しい馬小屋でお生まれになったイエス・キリストのことを思い起こすのです。



ホントホルスト「羊飼いの礼拝」